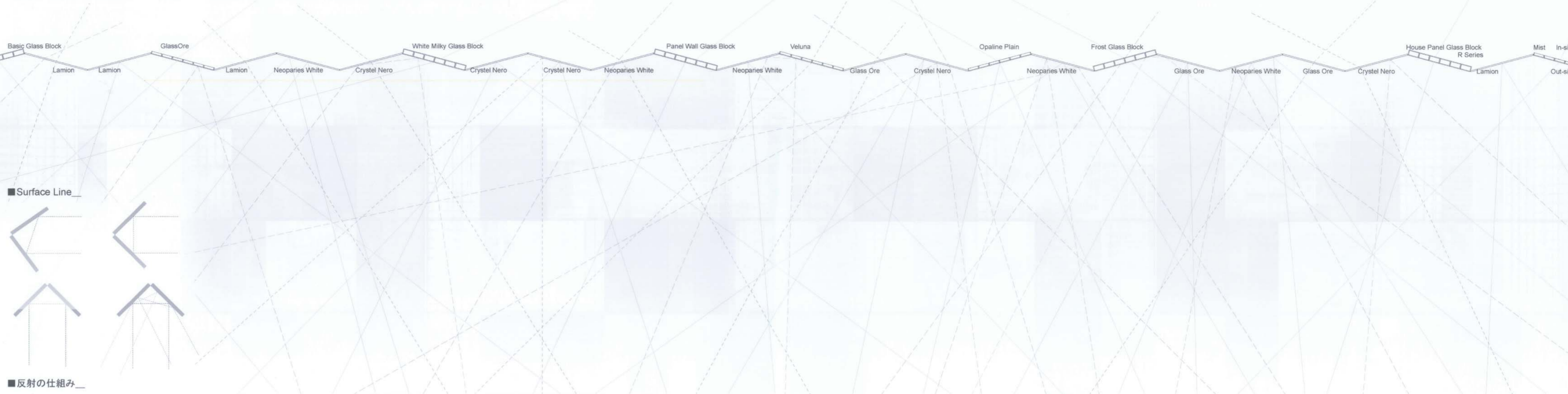
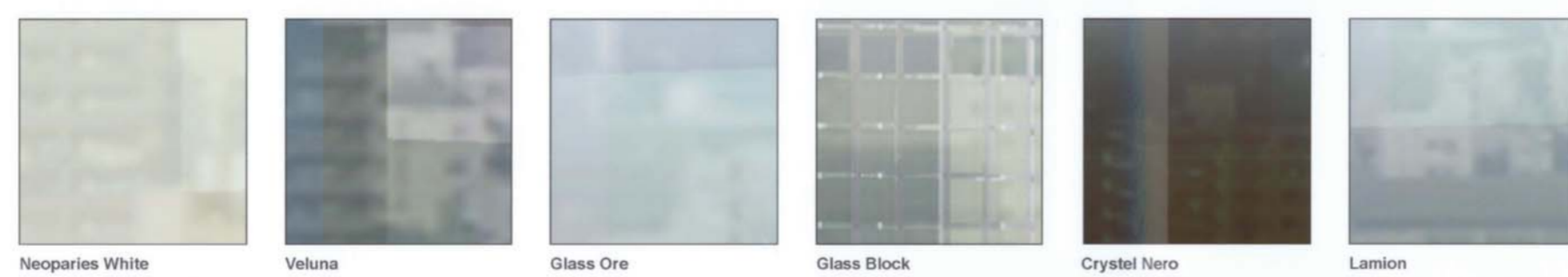


21st SPACE DESIGN COMPETITION  
 ガラス質を曖昧に組み立てる  
 輪郭を持たない「家」

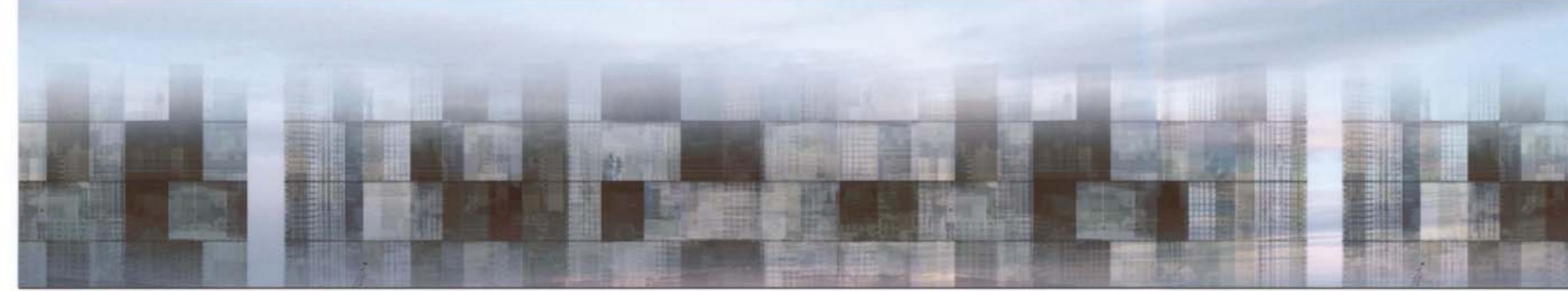
建築の内部空間は、住み手の自由である。各々の理想の住まいをつくれればいい。しかし、建築の外側はどうであろうか？空を切りとるスカイスクレーパーにはじまる、スカイラインの概念。都心では、集まって住まう機能を内包した集合住宅が大きなmassをつくり、郊外では、戸建ての家々がそれぞれの個性を主張する。街並み・自然の輪郭は、個々人の都合で切り取られ地球の存在を薄めてゆく、、、。輪郭を持たない「家」は、都会では集合住宅の大きなmass同士が乱反射しその存在を曖昧にする。郊外では、周囲の自然と呼応し、その存在を大地へと溶け込ませてゆく。地球上にほんの少しの間存在する人間。遅しく、しかし、少し謙虚に生きる事。その心が、建築へと移こまれ、地球と曖昧に戯れる場を築ければ、人と人の関係も曖昧に柔らかなものとはならないであろうか。



■Edge\_\_



■様々なガラス質の映り込み\_\_



■都心=曖昧に繋がる「まちなみ」\_\_



■郊外=自然と呼応する「家」\_\_